

しろかき地蔵

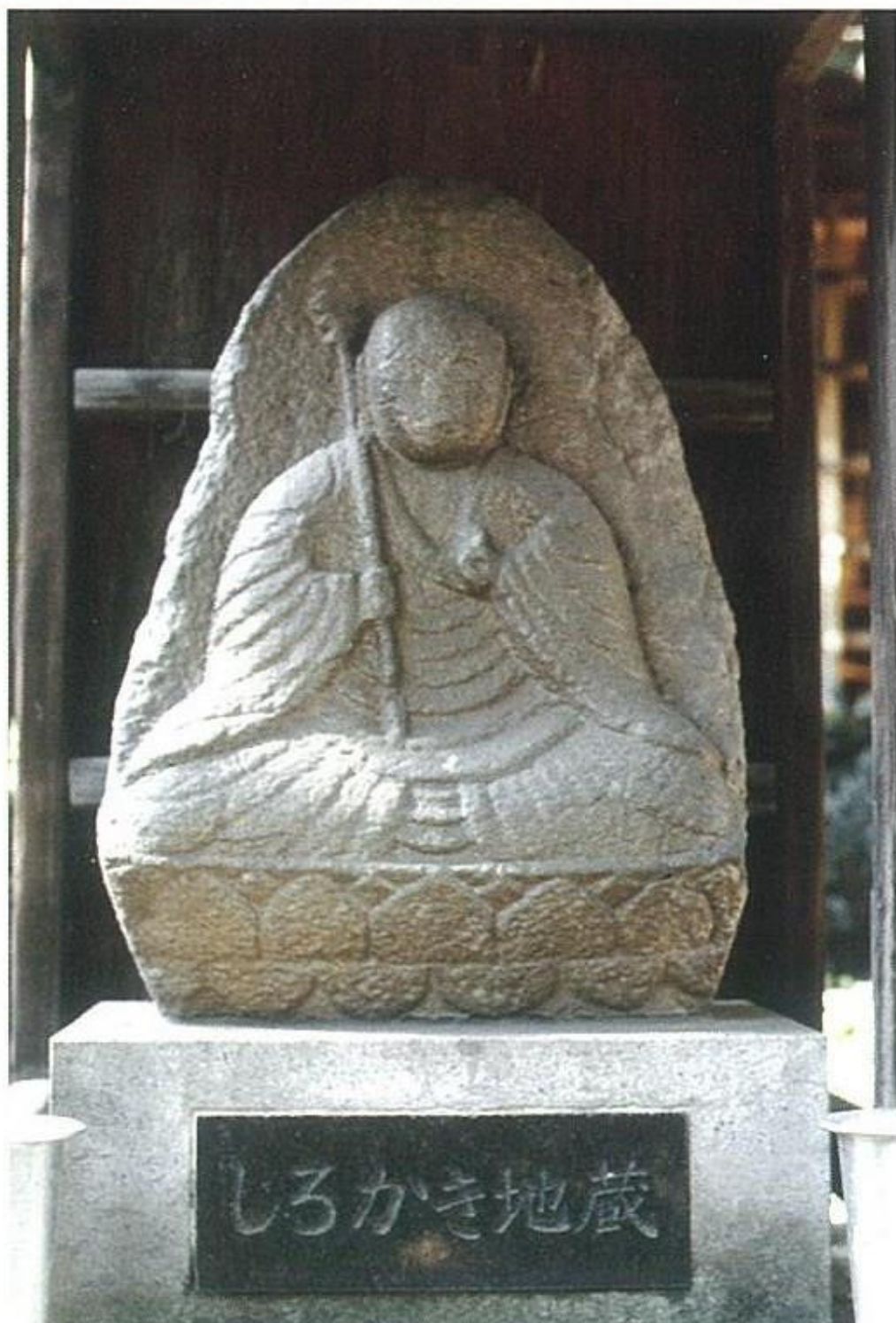
(しろかき じぞう)

板橋区登録有形民俗文化財(信仰) 昭和63年3月25日登録

舟型の光背に浮き彫りされ、目や鼻は少々破損していますが、右手に錫杖しやくじょう、左手に宝珠ほうじゆを持ち、衣には繊細な文様が残っています。像全体の曲線、猪首、衣の文様、錫杖の長さ、蓮台の彫刻などの特徴から中世に造られた石仏と考えられています。

西光寺の北を通る大谷道の坂は「地蔵坂」と呼ばれ、えんが堀にかかる橋は「地蔵橋」と呼ばれていました。地蔵は、当初地蔵坂の途中、氷川神社西側の斜面に祀られていましたが、戦前に当寺に移されました。

しろかき地蔵の名は、昔大谷口の百姓が翌日の田植えのために苗代なわしろかきをしていたが、終らないうちに日が暮れてしまい途方にくれていたところ、この地蔵が代わって苗代かきをしたことにちなみ、このように呼ばれるようになったといえます。当地域は、かつて「えんが堀」や湧水を利用した水田がひろがっていました。農作業の中で、このような信仰ができたのでしょう。



所在地：板橋区大谷口2-8-7 (西光寺)

交通：東京メトロ有楽町線・副都心線「千川駅」徒歩14分

国際興業バス「水道タンク前」徒歩4分

[池袋駅西口⇄日大病院 (池05・池85)]